

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用評価書(2019年版)、名古屋中規模事務所建築環境性能評価マニュアル(2016) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ナゴヤキャスルセントラルキッチン新築工事	階数	地上2F
建設地	名古屋市中川区清川町3丁目1番65	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	2,122㎡	作成者	
建築面積	1,120㎡	確認日	2021年2月1日
延床面積	2,029㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.3 ★★★★★★☆☆☆☆

★: S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% 30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	82%
③上記+②以外の	82%
④上記+	82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

音環境	3.4
温熱環境	2.6
光・視環境	2.8
空気環境	4.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性	3.6
耐用性	3.1
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.3
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.7
地域環境	2.5
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
HACCPに対応した建築計画とし、動線については、メインの生産ラインを1階に集約して上下の移動を可能な限り少なくするように設計しています。		
Q1 室内環境 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図るとともに、風除室・シートシャッターを設け防塵・防虫性能を確保しています。	Q2 サービス性能 鉄骨・ラーメン構造を採用、壁長さ比率=0.19とすることで、自由度の高い空間としています。	Q3 室外環境(敷地内) 建物正面の敷地境界付近に緑化を集約させ、近隣の調和を図ると共に、見通しの良いフェンスを設け、防犯性に配慮した計画としています。
LR1 エネルギー 照明器具はLEDを採用し、設備システムの高効率化に配慮しています。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具は節水型を選定し、内装材の多くはグリーン購入法適用資材を活用しています。	LR3 敷地外環境 光害・騒音等に配慮した計画とし、建物から発生する環境負荷の低減を図っています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

ナゴヤキャッスルセントラルキッチン新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル;
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.116506175	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.011650617
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.058253087	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.8	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。